



# 令和6年第4回 新得町議会定例会 ダイジェスト

2024年12月17日

決議された議案と、町の未来を左  
右する4つの一般質問

議会一般質問 議事録要約版

# 議決事項：職員給与・ボーナスの引き上げ

## 基本給（月額）

人事院勧告に基づく改定

+**2.78%**

初任給 約+1万円

## 期末・勤勉手当（年間）



4.50ヶ月分 **4.60ヶ月分**

年間支給月数の引き上げ



## 議決結果：全会一致で可決

対象：一般職、再任用職員、特別職（町長・副町長など）

# 論点① 教育・子育て支援

## 修学旅行費の無償化は実現するか？

議員の提案（理想）



- 近隣の清水町は全額助成を実施
- 人口減少対策として、子育て世帯を呼び込む投資が必要

「修学旅行は単なるカリキュラムではなく、一生の思い出」

行政の回答（現実）



- 旅費は急激には高騰していない（行程の見直しで抑制）
- 困窮世帯へは『就学援助制度』すでに支援済み
- 財源と公平性の観点から慎重な検討が必要

# 町長の視点：受益と負担のバランス

---



“安くするために行き先を変えることが、果たして本当に正しい教育なのか？”

- 
- 町長は、単なるコストカット（旅行の短縮）が教育的価値を損なう可能性を懸念。
  - 今後のアクション：旅行費単体ではなく、「子育てにかかるトータルコスト」全体を検証し、受益と負担のバランスを研究する。

## 論点② 自治体DXの推進

---

### 新得町の現在地



“議員の指摘：「専門部署がなく、国のスピード感と比較して動きが遅い」

# デジタル効率 vs 対面重視



効率化・変革  
(議員)

効率化・変革を発達

組織文化を変え、DXは避けて通れない  
課題としてスピードアップを要求。



対面・安心  
(町長)

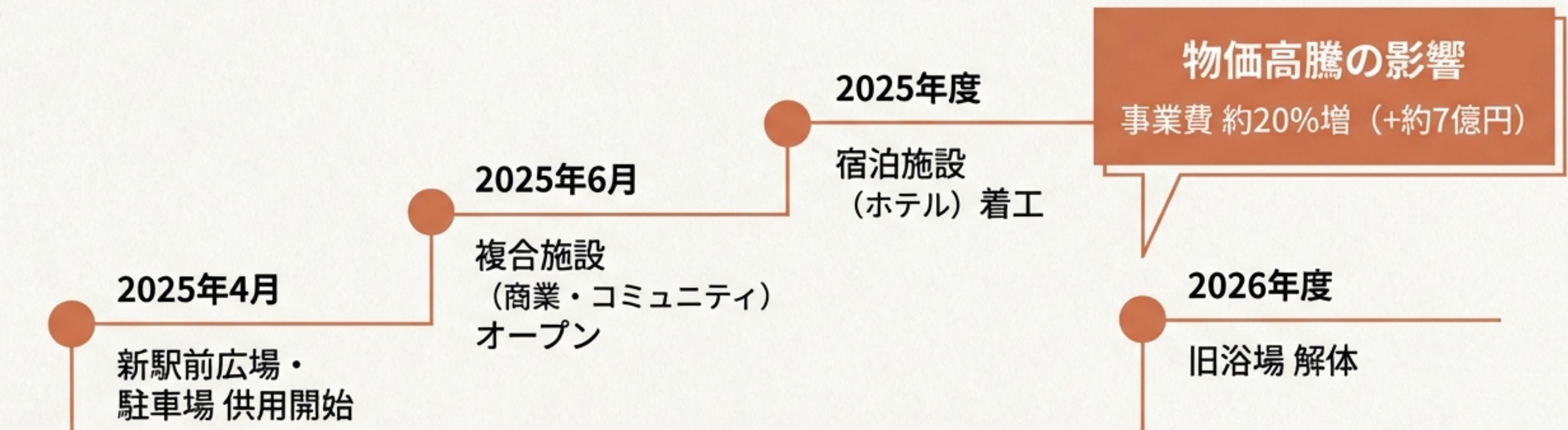
“「私は相手の顔を見て  
仕事をするのが好きだ」”

トップランナーになる必要はない。  
成功事例を見極めてから導入する  
「後発の利」を選択。

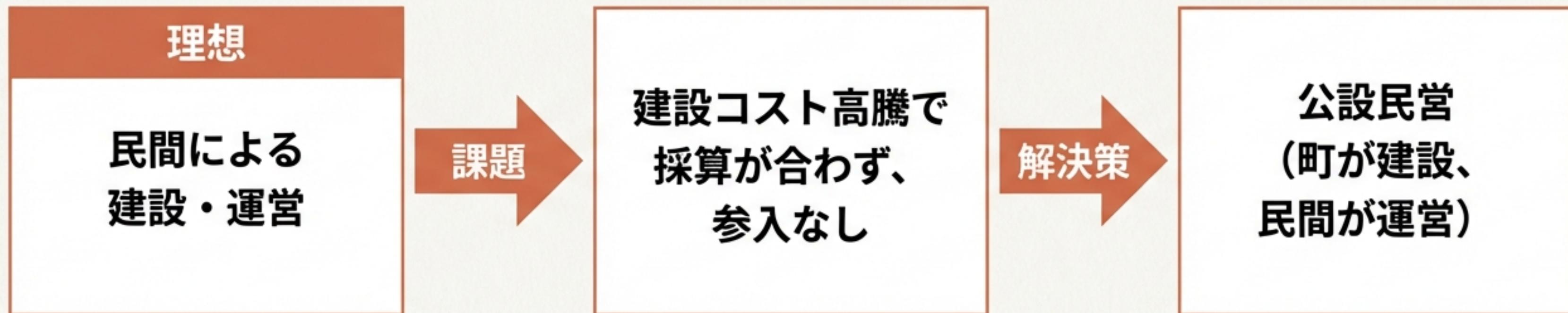
問い合わせ：巨額の初期投資は、本当に町民の生活を豊かにするのか？

## 論点③ 駅周辺再整備事業

### 建設スケジュールの現状



# なぜ「公設民営」のホテルなのか？



“ 「経済活動もまた、福祉である」 ”

宿泊・飲食・購買を町内で循環させることが、  
地域コミュニティを支えるという町長のロジック。

運営主体：株式会社 新得町マネジメント  
(町内経済循環を最優先)

## 論点④ 多文化共生

新得町における在留外国人の実態

160名

在留外国人（2024年11月時点）

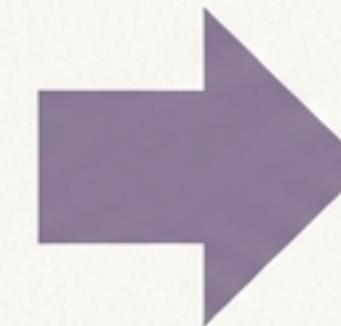
- 技能実習生（短期労働）
- 観光業スタッフ（クラブメッド等）
- 農業・介護従事者

課題：国の交付金（環境整備、ワンストップ窓口）を活用できていない現状を議員員が指摘。

# 「労働力」から「生活者」へ



雇用主による支援に依存



生活支援へのニーズ拡大

- 食：スパイスや特定食材へのアクセス要望
- 移動：勤務地(リゾートエリア) から市街地への買い物手段

## 行政の姿勢

外国人の存在感の高まりを認め、単なる労働力受け入れから生活環境の整備へシフトする必要性を示唆。

# 町長の政治姿勢：慎重な実利主義

## 流行を追わない（DX）

- ・「トップランナーになる必要はない」
- ・実益が見えるまで投資を待つ姿勢

慎重な  
実利主義

## 全体最適の視点（補助金）

- 「トータルコストを研究する」
- 部分的なバラマキを回避

## 経済循環への投資（建設）

「経済活動は福祉」

町内にお金が落ちるなら、大規模投資も厭わない

# 今後の注目ポイント

---

- |  教育：子育て総費用の検証結果と、新たな助成策の有無
- |  DX：「書かない窓口」の導入と、町長の投資決断
- |  駅前整備：建設費の増額幅と、指定管理（新得町マネジメント）の運営手腕
- |  多文化共生：外国人住民への具体的な生活支援（移動・買い物）の開始

# 新得町の未来を考える

理想と現実のバランスを問い合わせ続ける。